

遠見番所一箱根箱根御關所ノ是モ加賀守忠真進退ス、

〔新編相模國風土記稿二十七八箱根御關所略中

時鐘所。小田原町ノ東屋背ニアリ、鐘ハ寛保三年七月新鑄スル所ナリ、小田原領主ノ置所ニテ、關門開閉ノ爲、時ヲ報ズル所ナリ、

〔源平盛衰記十四三井寺僉議附淨見原天皇事

宮名乗テ憑マントオボシテ、丸ハ淨見原ノ宮也、深ク汝ヲ憑ト宣ヘバ、長者畏テ聳ニ取奉テ隱シ置奉ル、年月ヲ經テ、王子二三人出キ給ヘリ、其後長者東夷ヲ催テ、白鳳元年壬午、始テ不破關ヲ置テ、美濃國ニテ軍構シ給ヘリ、略中宮都ニ上給ヒ、卽位給ニケリ、天武天皇トハ是也、淨見原天皇共申、天皇崩御ノ後、關ノ長者ノ恩ヲ思召ケルニヤ、神ト被祝給ヘリ、關明神ト申ハ是也、關所ノ殿原ト云ハ、彼長者ノ女ニ儲給ヘル末葉也、

〔吾妻鏡九〕文治五年七月廿九日丁亥、越白河關給、關明神御奉幣、此間召景季、當時初秋也、能因法師

古風不思出哉之由被仰出、景季扣馬詠一首、

秋風ニ草木ノ露ヲ拂セテ君ガ越レバ關守モ無シ

〔長明無名抄〕一會坂に關の明神と申は、昔の蟬丸なり、かのわらやの跡を失はずして、そこに神となりてすみ給なるべし、いまもうち過るたよりにみれば、昔深草のみかどの御使にて、和琴ならひに良峯宗貞良少將とて、かよはれけんほどの事までも、おもかげにうかびて、いみじくこそ侍れ、

〔伊勢參宮名所圖會〕關守神略中

今山坂上山に蟬丸宮二座東西にあり、略註これを關守神といふ、蟬丸と名付しは、近來の所爲な

るべし、尤上下に有し事は、秀吉連歌の端書に見へたり、昔關所ごとに神祠を置り、市に市姫の神、